

「甲府市の地域資源である  
ジュエリー産業の振興促進」  
に関する活動指針の提言

令和6年3月12日（火）

甲府商工会議所  
甲府商工会議所水晶宝飾部会  
協同組合山梨県ジュエリー協会

# 「甲府市の地域資源であるジュエリー産業の振興促進」 に関する活動指針の提言

## 1. 経 過

甲府商工会議所、甲府商工会議所水晶宝飾部会および協同組合山梨県ジュエリー協会では、令和5年2月28日に甲府市長宛に『甲府市の地域資源であるジュエリー産業の振興促進』に関する提言を行った。提言後に当部会・協会では、「甲府市の地域資源であるジュエリー産業の振興促進」に関する内容を年間計画に掲げる中、活動指針と甲府市への提言を取りまとめた。

## 2. 課 題

活動指針を取りまとめる上で、下記のとおりジュエリー産業が抱える課題の洗い出しを行い、この課題解決に向けた先進地視察や水晶宝飾部会議員・評議員合同懇談会等での意見交換を実施した。

- (1) 職人の後継者不足
- (2) ジュエリー産業の一般消費者に対する知名度不足

## 3. 事業内容

- (1) 先進地視察研修
  - ①愛知県一宮市（令和5年5月）
    - ・公益財団法人一宮地場産業ファッションデザインセンター
  - ②石川県金沢市（令和5年7月）
    - ・金沢卯辰山工芸工房
    - ・金沢市役所文化政策課・クラフト政策推進課
    - ・作田金銀製箔株式会社／株式会社金銀箔工芸さくだ
    - ・金沢市立安江金箔工芸館
    - ・公益社団法人金沢職人大学校
- (2) 懇談会等での意見交換
  - ・議員・評議員合同懇談会  
（令和5年6月、令和5年8月、令和6年2月）
  - ・正副部会長会議（令和5年8月）

## 4. 活動指針

### 職人育成のための奨励金制度の創設およびやまなしジュエリー ウィーク事業の継続的な推進と拡大

#### (1) 職人の後継者不足への対応

職人の後継者が不足する理由としては、徒弟制度的な形で行われた技術の継承が世相の変化の中できなくなってきたことや高い技術に見合う収入が得られないこと・仕事量が安定的に確保できないことによる職人希望者の減少が挙げられる。職人の育成については、業界や各職人の取り組みはもちろん必要だが、地場産業の基幹として行政と連携しながら取り組むべき課題である。

具体的には、職人育成のための奨励金制度の創設が望ましい。制度内容については、今後検討を重ねる必要があるが、資金については、金沢市視察で研修した「金沢の文化の人づくり奨励金」をモデルに構築すべきである。

仕事量や収入の部分については、主に業界で解決すべきであるが、甲府市がタイ国商務省と結んでいるMOUを有効に活用し、タイからの仕事の受注スキームの構築を検討する必要もある。

#### (2) ジュエリー産業の一般消費者に対する知名度不足への対応

甲府商工会議所水晶宝飾部会・協同組合山梨県ジュエリー協会は、共催でジュエリー産地山梨を県内外にPRし、山梨ジュエリーのファンづくりを目的に「YAMANASHI Product Fashion-show」や「ジュエリーツーリズム」を中心にやまなしジュエリーウィーク事業を実施しているが、本格的に実施したのは令和4年度からで知名度アップには、継続的な実施と更なる事業の拡大が必要と考える。

また、甲府市においては、本ウィークに一つの会場として参画していただいているが、更に一般消費者に向けジュエリー産業をPRするために、主催者として参画すべきとも考える。

## 5. 甲府市への提言

活動指針の具体的な実行にあたっては、現在の商工課で行っている取り組みを明瞭かつ緊密にしていくための体制構築が必要であることから、産業部内にジュエリー課の設置もしくはジュエリー担当者の配置をすべきである。加えて、ジュエリー課設置については、知名度アップには大きな効果があり“宝石のまち甲府”の大きなPRにもなると考える。

なお、甲府市の地域資源であるジュエリー産業の振興促進のために、ジュエリー課の設置またはジュエリー担当者の配置を行うことに対して、当所・当協会としては甲府市との更なる連携を深めて事業を行っていきたいと考えている。

## 6. 先進地視察（参考）

### （1）愛知県一宮市

#### ①一宮市概要

愛知県一宮市は、愛知県の尾張地方に位置する都市で、中核市に指定されている。一宮市を中心に愛知県尾張西部エリアから岐阜県西濃エリアが「尾州」と呼ばれており、「尾州」はウールの世界三大産地の一つである。

#### ②繊維業界概要

「尾州」は、国内の毛織物の生産量の約60%を占め、「繊維の街」として有名である。糸から生地になるまでの多くの工程をこの地域の中で分業・協業によって一貫してでき、尾州全体が一つの大きな工房・工場といえる。

一宮市の産業出荷額における繊維産業が占める割合はかつて約93%だったが、現在は約13%と大きな落ち込みとなっている。

#### ③公益財団法人一宮地場産業ファッションデザインセンターについて

視察先である公益財団法人一宮地場産業ファッションデザインセンターは、繊維産業を代表とする尾張西部地域の地場産業振興を図るため、昭和59年2月に開設された。開設にあたっては、

国・愛知県・一宮市を始めとする地域24市町村や18業界団体が協調し、実現を図った。場所は、尾張西部地域のほぼ真ん中に位置し、あいち産業科学技術総合センター尾張繊維技術センターとも隣接しており、事業も両機関が各々の機能を補完し有機的連携を持って活動している。

センターの事業費は約1億5,000万円で、財源は一宮市が9,000万円・周辺6市町が1,000万円ずつとなっている。この他一宮市はセンターに対し4名の職員を出向させており人件費も負担している。

当センターでは、下記3事業を中心に実施している。

- ・ PRODUCT（ものづくり・商品開発）事業

一宮市にて総合展の開催や福祉衣料の開発支援、シミュレーションソフトを活用した見本製作を行っている。

- ・ PERSON（人材育成）事業

繊維企業で働く若手人材を対象に研修会の開催および繊維企業への就職を希望する学生の研修受け入れや学生と経験豊かな技術者とのコラボレーション、各種セミナーなどを実施している。

- ・ PROMOTION（ビジネスチャンス創出）事業

原宿での展示会の開催、海外販路開拓事業、尾州マークを活用した産地アピール事業などを実施している。

#### ④まとめ

甲府市におけるジュエリー産業は、日本が世界の誇るジュエリー産業の集積地であり、一宮市と同様に甲府市を中心とする周辺地域が一つの大きな工房・工場である。

一宮市から繊維業界への支援金は9,000万円・周辺6市町も1,000万円ずつと甲府市がジュエリー業界へ支援している金額（ジュエリー協会および甲府商工会議所を通じたジュエリー業界への支援：約300万円）と比較すると大きな差がある。

また、一宮市の繊維産業は細分化されており、それぞれの業種ごとに組合が存在する。この組合を束ねているのが、一宮地場産業ファッションデザインセンターである。ジュエリー業界に重ね

てみると、旧水宝連のような組織と言える。

一宮市では旧水宝連のような組織に大規模な支援金を支出し、かつ職員を4名出向させるなど業界と行政は密接に連携していた。



## (2) 石川県金沢市

### ①金沢市概要

金沢市は、石川県のほぼ中央に位置する市。石川県の県庁所在地および人口が最大の市で、中核市、保健所政令市、中枢中核都市に指定されている。2009年にはユネスコの創造都市に認定された。(国内では神戸市、名古屋市に続く3番目、クラフト&フォークアート部門ではアジア初)。

### ②金沢市視察について

金沢市は多くの伝統工芸を持ち、職人育成の先進地であるため視察先として選定した。

今回の視察では、金沢卯辰山工芸工房、金沢市役所文化政策課・クラフト政策推進課、作田金銀製箔株式会社、金沢市立安江金箔工芸館、公益社団法人金沢職人大学校の5か所を視察した。

それぞれの施設を下記のとおり紹介する。

#### ア. 金沢卯辰山工芸工房

- ・本工房は、金沢の優れた伝統工芸の継承発展と文化振興を図るための工芸の総合機関。
- ・本工房では、「陶芸」「漆芸」「染」「金工」「ガラス」の5工房を有している。

- ・金沢市では工芸が盛んであり、重要な産業であるため、人材を育成していかないと金沢市の特徴を失うことになるので、人づくりに着手した。本工房では、世界に発信できる人材の育成を目指し、職人ではなく作家を養成している。また、ものづくりに新しいものを取り込み、未来志向でものづくりを行っている。
- ・工房運営費は、全額金沢市が負担しており、事業費が約5,500万円、管理費が約1億200万円の合計約1億5,700万円。一定のレベルを超えている人でなければ入校できないこととし、競争原理を働かせている。
- ・技術研修者は全員が、金沢の文化の人づくり奨励金（月10万円×2～3年）の対象となる。
- ・本工房を修了後、金沢に定住するのは約30%だが、元々全員の定住は求めている。金沢で研修した方が国内外で活躍して金沢を発信してくれることの方が重要だと考えている。
- ・本工房が有している5工房にはそれぞれ専門職員を配置している。これら専門員は、その分野のプロであり、厳格な入職試験をクリアし5年契約で専門員に就任している。
- ・独立支援の一環として、ギャラリストとの接点や販売の場、展覧会のチャンス獲得のためにArt Fair Tokyoへ出展している。出展経費120万円は金沢市が支援している。ここにも競争原理を働かせており、誰でも出展できるわけではない。



#### イ. 金沢市役所文化政策課・クラフト政策推進課

- ・金沢市では、質の高い文化に触れることで、住む人は深い教

養と品位を身につけ、まちへの愛着と豊かな心を育み、訪れる人は文化の香りと美しいまちなみから、都市の品格を感じる、「世界に誇る文化都市金沢」を目指している。



- ・金沢市の地場産業支援は、経済局60名で対応しており、予算は、17～18の文化施設（指定管理）に20億/月を計上。また、支援内容によりクラフト（工芸）と商工で支援する課が分かれている。
- ・クラフトを独立させた課にしているのが金沢市の特徴である。クラフトを独立した課としたのは、ユネスコ創造都市への登録がきっかけで、分散していたクラフト関係業務を集約して、伝統産業推進室からクラフト推進課へ移行した。現在クラフト政策推進課は7名、予算3.5億円（銀座の金沢運営費含む）+人件費で運営している。
- ・金沢市の工芸に関する支援としては、人材育成の奨励金や補助金、工房開設にあたっての支援、商談会参加への補助金などがある。
- ・金沢卯辰山工芸工房などの技術者が受けている金沢の文化の人づくり奨励金の原資は、金沢市文化の人づくり基金でふるさと納税や株の配当等を積み立てており、基金運用利子を奨励金・助成金に充当している。
- ・金沢の文化の人づくり奨励金には5区分あり、雇用者・被雇用者、研修者などを対象に奨励金を支給している。

#### ウ．作田金銀製箔株式会社／株式会社金銀箔工芸さくだ

- ・金沢箔生産事業所数のピークは約2,000事業所。金沢箔の月産枚数のピークは昭和末期で800万枚～900万枚あったが、現在は約80万枚まで減少している。
- ・金箔の生産は感の世界なので、高齢でもできる仕事。むしろ



高齢の方が熟練の技術で質が高い。定年制が無いので若い職人の育成が遅れたことなどから、職人は減少している。

- ・仏壇の減少など生活様式の変化により金箔の需要も減少傾向にあり仕事量も減少。組合員は15年で150社から72社へと半減している。
- ・このような状況の中、金箔は金沢市が国内シェアほぼ100%であることから、金沢市のバックアップが大きい。金沢市は金箔の街としてPRしており、職人大学校でも金箔職人を育成している。作田金銀製箔株式会社でも、職人を雇用し職人技術の伝承を行う予定である。
- ・ユネスコ無形文化遺産に登録された金沢の伝統製造技術「縁付金箔」の持続的保存のため、次世代の職人育成を目的にティファニーとワールド・モニュメント財団は金沢市と連携し、金沢縁付金箔製造職人育成プログラムを発足し、2022年から3年間の間は毎年6,000万円の補助金が交付される。
- ・組合の取り組みとしては、石川県に働きかけ伝統建物の仕様書に金箔をいれてもらうように働きかけている。
- ・一般向けの製作体験は、2000年頃から強化し、インバウンド客増加に伴い急増し、現在の体験人数は25,000人/年で、2023年は30,000人/年のペースとなっている。
- ・体験を始めたころから修学旅行も受け入れている。子供は売上に繋がらないが楽しい体験をしてもらいリピーターに繋げることを目的とした結果リピーターとして戻ってきている。



#### エ. 金沢市立安江金箔工芸館

金箔の歴史や製造工程、金箔の活用例等について視察した。

## オ. 公益社団法人金沢職人大学校

- ・ 27年前に石川県内に伝統的建造物を手掛ける職人はほとんどおらず、この状況を打破するために、伝統的で高度な技術の継承と後継者の育成と市民の認識向上のために、プロが集まる大学校として9業種9組合の寄附と金沢市の出資を受け、職人大学校が設立された。
- ・ 伝統的で高度な職人の技の継承及び後継者の育成は、文化政策でありまちづくりである、これは、歴史に責任を持つということである。
- ・ 職人大学校では①職人数・受講者数不足、②職人大学校の全国へのPR、③修了生有効活用の3つの課題を抱えており、これらを打破するために職大活性化プランが策定された。職大活性化プランの内容は下記のとおり。
  - (ア) 職人数・受講者数不足についての対応
    - 各組合からの推薦を条件に広域に受入れを実施するなど研修対象者の拡大を推進。
  - (イ) 職人大学校の全国へのPRについての対応
    - 作業映像のアーカイブや手引書、広報漫画「金沢職人ばなし」を作成するなど独自のPRを実施。
  - (ウ) 修了生有効活用についての対応
    - 仕事の創出や外部団体等から依頼を受けた研修の実施するための人材バンク機能の整備を実施。
- ・ 職人大学校の運営に係る総予算は、7,100万円で全額金沢市の支出。国からの助成などは受けていない。

